

血液が滞って血管膨らむ

下肢静脈瘤は脚の表面近くにある静脈の病気です。血管内の弁が壊れて心臓に戻るはずの血液が逆流し、血液が滞って血管がこぶのように膨らみます。

もう少し詳しく説明すると、静脈の中には血液の逆流を防ぐ弁があります。しかし、長時間の立ち仕事や肥満、妊娠などによって下肢の静脈に圧力がかかると、やがて弁が機能しなくなります。そうすると、本来なら心臓に向かって流れる血液が、重力で足先へと流れてしまい、静脈が拡張する仕組み

接着剤で脚の血管ふさぐ

焼かずに下肢静脈瘤治療

脚の血管がこぶのように浮き出る「下肢静脈瘤」は、直接、命に関わる病気ではありませんが、

見た目を気にして悩む人は少なくありません。

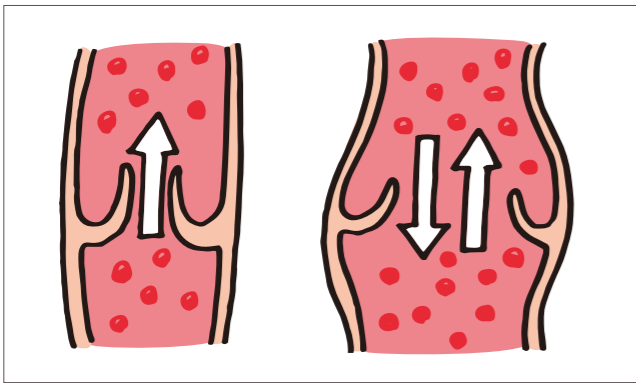
近年、接着剤で血管をふさぐ新たな治療法が登場しました。

従来の治療と違って血管を焼かないため、麻酔の量を少なくできます。

金沢医科大学心臓血管外科学の藤井大志助教に解説をお願いしました。



下肢静脈瘤の特徴的な症状。
血管がこぶのように浮き出る

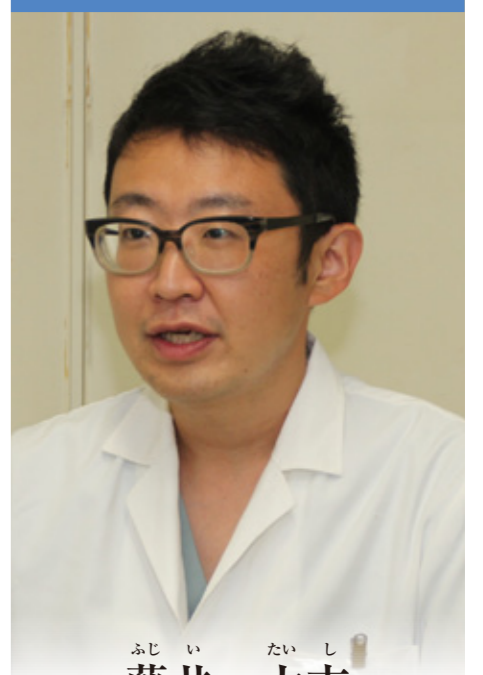


弁が正常な静脈(左)と機能しなくなった静脈のイメージ図



グルー治療で使うクロージャーシステム。本体はガンタイプで、細い管を挿入し、先端から接着剤を注入する

| 今月の回答者 |



ふじい たいし
藤井 大志

金沢医科大学心臓血管外科学助教
心臓血管外科専門医認定機構専門医
日本外科学会専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術施行医など

です。

60歳以上の患者は7割女性

こぶは、ふくらはぎや太ももにできることが多く、脚の重さやだるさに加え、こむら返りを起こしやすく、皮膚の炎症で痛みやかゆみを招きます。下肢静脈瘤の患者の75%が、ふくらはぎから太ももにかけての静脈で発症します。男女比は1対1・3と女性の方が多く、60歳以上をみると、患者さんの7割が女性というデータもあります。

患者さんには、症状によって主に三つの選択肢を示します。一つは、直径11ミリまでならレーザー焼灼術、11ミリを超える場合はストリッピング術を選択するよう推奨しています。ただ、レーザー焼灼術は熱による痛みを和らげ、やけどを防ぐため複数力所に麻酔を注入し、術後もしばらく痛みや腫れが続きます。ストリッピング術も全身麻酔か下半身麻酔が必要で、術後に傷跡が残ることが避けられません。

麻酔は挿入口のみ

そこで患者さんの負担が小さい治療法として注目されているのが「グルー（接着剤）治療」です。2019年に保険診療が適用されました。「クロージャーシステム」と呼ばれる細い管「カテーテル」を通じて、血管内に医療用生体接着剤「グルー」を入れて逆流をストップします。

グルー治療は熱を出さないため、麻酔を行うのはカテーテルの挿入口だけで、術後の痛みもほとんどありません。施術はエコーで血管の状況を確認しながら、膝上から

目は、伸縮性に優れた弾性ストッキングを着用して血液の流れを促す「圧迫療法」です。あくまでも病状の進行防止や治療後のケアに用いられ、根本的な治療にはつながりません。

二つ目が「レーザー焼灼術」で、静脈内に極細のレーザーファイバーを挿入し、レーザー光で血管を焼いてふさぎ、逆流を止めます。三つ目が外科手術で静脈を抜き取る「ストリッピング術」。この二つが下肢静脈瘤の根本的な外科的治療になります。

どちらを選ぶかは、静脈の直径がポイントになります。エコー(超音波)を使って静脈の直径を測定しますが、学会のガイドラインでは、直径11ミリまでならレーザー焼灼術、11ミリを超える場合はストリッピング術を選択するよう推奨しています。ただ、レーザー焼灼術は熱による痛みを和らげ、やけどを防ぐため複数力所に麻酔を注入し、術後もしばらく痛みや腫れが続きます。ストリッピング術も全身麻酔か下半身麻酔が必要で、術後に傷跡が残ることが避けられません。

グルーは血液に反応して瞬間的に凝固する性質があり、医師はグルーを注入することに皮膚の上から3分間ほど血管を圧迫してグルーが固まるのを待ちます。施術時間は30分前後で、念のため1〜2日入院していただきます。血液の逆流を止めた静脈は自然に消失するので、術後の静脈に心配はありません。レーザー焼灼術も同様です。

4月に導入、レーザーから転換

金沢医科大学病院心臓血管外科は4月にグルー治療を導入しました。半年間の施術例は10例ほどですが、今後はレーザー焼灼術からグルー治療に転換していきたいと考えています。下肢静脈瘤は手当てせずに重症化すると、合併症として血栓性静脈炎や皮膚潰瘍を発症する恐れがあります。いったんこうなると、治療に時間を要します。下肢静脈瘤を疑う症状が出た時はすぐに専門医を訪ねてください。